

年、長沼宗政之ニ代ル、足利尊氏ノ反スル、細川氏ヲシテ南海ヲ經理セシメ、細川師氏ノ弟ヲ以テ州守ニ任ジ、守護トナシ、養宜八木村中ニ治ス、永正中、其六世孫尙春、三好氏ニ弑セラレ、地終ニ三好氏ニ歸ス、天文ノ末、三好長慶ノ弟安宅冬康、由良城ニ居テ州主ト稱シ又洲本ニ城ク天正九年、冬康ノ子貴康、織田信長ニ降ル、十一年、豊臣氏南海ヲ定メ、仙石秀久ヲ封ジ、洲本城ニ居ラシム、十三年、秀久ヲ讃岐ニ徙シ、脇坂安治ヲ封ジ、三萬石又三原郡志知ヲ加藤嘉明ニ賜フ、慶長中、安治、嘉明、皆封ヲ轉ジ、池田輝政ノ三男忠雄ヲ封ズ、元和元年、全州ヲ以テ蜂須賀至鎮ニ加封シ、世襲、其臣稻田氏ヲ洲本ニ置キ城代トナス、王政革新廢シテ名東縣ニ屬シ、津名郡ヲ割テ、兵庫縣ヨリ兼治ス、又改テ悉ク名東縣ヨリ兼治ス、

〔先代舊事本紀十國造〕淡道國造

難波高津朝德○仁御世、神皇產靈尊九世孫矢口足尼定賜國造、

〔續日本紀二十五〕天平寶字八年十月壬申、從五位下佐伯宿禰助爲淡路守、

〔吾妻鏡十六〕正治二年七月廿七日辛巳、六波羅書狀等到來、佐々木中務丞經高、乍爲帝都警衛人數奉輕朝威條々也、略中加之令守護淡路國之間、蔑如國司命妨國務之上、去九日催聚淡路、阿波、土佐等軍勢、各著甲冑令馳騷、依奉驚天聽、被尋問濫觴之處、爲敵欲被襲之由、雖申之、更無實證、所行之企奇怪非一、早可達關東之旨、及勅命云云、上皇羽後頻逆鱗云云、八月二日乙酉、佐々木中務丞經高蒙御氣色、淡路、阿波、土佐、以上三箇國守護職以下所帶等、被召放之、以其趣所被申京都也、略下淡路常盤草、淡路國、雜著、武家守護職等、按するに、略中鎌倉の代佐々木氏、小笠原氏、相續て此國の守護となれり、皇威倍振はずして、國守の職廢れぬ、足利氏起りて室町の代、細川氏をして、淡路の守護たらしむ、この時諸國分崩割據して戦國やまず、細川數世の後、三好氏に併はせられて、其族人この國に居れり、安宅氏、織田家の命に従ひ、豊臣氏に歸降せしより、仙石、脇坂、加藤、池田相續